

企画展として、大和屋の歴史や、大和屋の文化を伝える企画展を企画しています。『大和屋の歴史』という企画展を、6月10日から16日まで開催しています。『大和屋の文化』という企画展を、6月17日から23日まで開催しています。『大和屋の歴史』という企画展は、大和屋の歴史を伝える企画展で、大和屋の創業から現在までの歴史を、大和屋の文化を伝える企画展で、大和屋の文化を伝える企画展を企画しています。『大和屋の歴史』という企画展は、大和屋の歴史を伝える企画展で、大和屋の創業から現在までの歴史を、大和屋の文化を伝える企画展で、大和屋の文化を伝える企画展を企画しています。

まだ、リニューアルしてから1ヵ月半ぐらいですけど、その間に5,6回来店してくださったお客さんもいます。以前からのお客様には、いい意味で「大和屋変わったな」と感じてもらいたいですし、まだ大和屋を知らない人には「神保町に、こんな店があるんだ」とワクワクしてもらいたいです。お客さんに喜んでもらうだけでなく、作家さんとかにも「大和屋で作品を展示したい」と思われるような企画になるように心がけています。

7月からは「手ぬぐい祭り」を企画していて、さまざまな作家さんに手ぬぐいの制作をお願いしています。テーマは「神保町or大和屋」です。この企画展が神保町を知るきっかけにもなってほしいとも思っています。



入店して右手には色鮮やかで素敵なデザインの「手ぬぐい」が展示されていました

Q6. 「SNSを活用されていますが、意識されていることはありますか？」

SNSは情報発信だけではなくて、「コミュニケーションをとる場所」だと思っています。ただ単に「こういう企画展にあります。こういう商品入荷しました」だけだと面白くない。お客さんが今求めているものは何かと考えた時に、お店の人と気軽にコミュニケーションをとれることじゃないかと思います。もちろん真面目な事も書きますが、基本的にはお店の雰囲気とかを知ってもらって、気軽にコミュニケーションをとってもらえるきっかけにしたいです。

＊大和屋履物店さんのHPや各種SNSはこちら！！ → [大和屋履物店 | Linktree](#)

Q7. 「今後のお店の目標についてどう考えていらっしゃいますか？」

「もっといろんな人が楽しいって思ってもらえるお店」です。お客さんは少しずつ増えていくもの、やっぱりまだまだなので、もう少し世代と地域を拡大でき

増えたり減ったり、今は少し減った分、オンライン上に地域を拡大して
たらしいなというのが目先の話です。もっと先の話をすると、今は充子さんの作品
が中心だったり、また、下駄の職人さんはもう高齢なんですよ。なので、しっか
り自分たちが職人さんを探したりしながら、この下駄という文化を残すためには
どうしたらいいんだろうっていうのをちゃんと実現できるような経営していきた
いと思っています。一方で、下駄を広めようと活動している方もいて、そういう方
とどんどん知り合って、そういう方が気軽にここでイベントが開けるような、そ
んなお店に行きたいです。

Q8. 「職人さんの後継者問題もあるのでしょうか」

なかなか、若い人が「下駄職人になりたい!」とは思わないですよ。そこが、
この業界の怖いところですよ。こういう話題でよく聞くのが、そもそも下駄を作
ることを我々は「すぎる」と言うのですが、その道具がもう作られてないんです。
需要が無いから。だから本当に「下駄文化」というものがすぐ無くせるような文
化になっている。

その原因として、ひとつ感じていることは「価格が下がりすぎている」というこ
とです。それなりの物を安く買える環境になっているので、モノの価値がものすご
く下がっている。だから、後継者になるうとは思えない金額で取引されている。
それを「いいものはそれにあった価格で販売すべき」という動きを我々の方で取
らないと、職人さんになるっていう夢を持つ人がいなくなってしまいますよ。だ
から、私たち販売店だけでなく、職人さん側もしっかりと商売として成り立つ
仕組みを作らないといけない。

じゃあ、大和屋が価格を上げればいいのかというと、そんなに単純じゃない。他に
も下駄屋さんがあるので、自分たちだけでは根本的な解決にはならないと思いま
す。正解がわからない、解決が難しいからこそ、考え続けなければいけないん
です。

「大和屋履物店さんからのメッセージ」

「気軽に入っていただきたいという想いでお店をリニューアルしました。是非一
度訪れていただいて、日本の職人さんたちの手仕事というのを触れる機会してい
ただけたらいいなと思います。」（5代目）

「買い物とかじゃなくても、ちょっと顔を見せてくれたり、気軽に通ってもらえ
たらなと思います。」（4代目）

おわりに

お話をうかがうなかで「文化を継ぐ店」という経営ビジョンに信念をもって取
り組まれていると感じました。和装文化を広める・守るために、イベントやSNSな
ど様々な方法で、私たちが和装文化に触れる機会や作家さんが活躍できる舞台を
作られています。私たちも「いいコーヒーには いい〇〇」という活動コンセプト
に込めた想いを実現できるように、今一度、何ができるのか・何をすべきかについ
て考えなければならないと感じました。

また、職人さんを守るためには「いいものはそれにあった価格で販売すべき」と

いうお話しが印象的でした。私たちがテーマにしているコーヒーも、高品質なものであっても生産者の手元に入る金銭が少ないことが課題になっています。日本の伝統文化と海外のコーヒー生産に共通する問題があるのは興味深いですし、「神保町×コーヒー」をテーマにしている私たちとしては何かチカラになりたいと思います。

最後に、お忙しいにも関わらず3代目から5代目まで総出でご対応いただきました。ありがとうございました。

また、船曳さんは、インタビュー後もゼミの活動などにアドバイスをしてくださる後輩想いの優しい先輩です。きっと、お店を訪れた際は気さくに話しかけてくださると思うので、ぜひ足を運んでください。

[Home](#)・[インタビュー](#)・[神保町インタビュー](#)「大和屋履物店」ー「文化の継承」と「新しさ」への挑戦

2021-07-14 by [jimbocho_admin](#)

関連記事



「どうすれば魅力あふれる神保町の未来を守れるか？」青野芳久さん（神保町地区地域コミュニティ活性化委員会 委員長）に聞く



町会活動が盛んで、「多様性」が神保町の魅力 - 千代田区神保町出張所 武笠真由美所長インタビュー



神保町に息づく古本の世界とは？ ～ スーザン・テイラーさん（ハーバード大学 博士課程）に聞く



「これからのコーヒービジネス」（石脇智広さん、石光商事（株）代表取締役社長）



スティグリッツ教授（ノーベル経済学受賞者）との意見交換の動画を公開

神保町コーヒープロジェクトは神保町発
でさまざまなコーヒーの情報発信をして
いくものです。コーヒーを軸に「神保町
の街づくり」と「SDGs」（持続可能な開
発目標、Sustainable Development
Goals）に取り組めればと思っています。

@JimbochoCさんのツイート

神保町コーヒープロジェクトさんがリツイートしました

on a slow boat to...
@slwboat2

神田猿樂町でお店を始めて早8ヶ月目。
MeidaiEcoHoneyの明治大学大森ゼミとの交流に
始まり、神保町コーヒープロジェクトの島田ゼミ
との交流、そしてふらっと神保町をへて大和屋履
物店さんとも繋がり、手拭いをいただきました。
(続く)



埋め込む

Twitterで表示

神保町コーヒープロジ...

このページに「いいね！」 25 件の

140周年
明治大学
MEIJI UNIVERSITY

多様なアクター(主体)とつながり
共創の未来へ

グローバル

地域

キャンパス

UNHCR難民高等教育
プログラム (RHEP)

SDGsを基にした
観光まちづくりの調査

コーヒーからみる世界と日本
—神保町コーヒープロジェクト—

明治大学 × SDGs

最新の発信情報はこちらから
https://www.meiji.ac.jp/sdgs/ ja/en/ports/

神保町コーヒープロジェ
クト

約1週間前

アムにちけ！島田ゼミです！

神保町コーヒープロジェクト